

チェルノブイリと福島原発事故

内部被曝と健康被害

福島原発事故での深刻な放射能汚染が明らかになっているにもかかわらず、国は、緊急時避難準備区域の解除を9月30日付けで行いました。7ヶ月過ぎても未だ除染がすすまない中、多くの市民が見えない放射能の恐怖に曝され、生命を脅かされています。

内部被曝研究の権威、矢ヶ崎克馬さんは、3月11日の事故直後から、福島市、南相馬市、飯舘村などの8自治体を回り、現地の空気、農地、水などの放射能測定を実施し、危険性を訴えてきました。5月には、衆議院科学技術特別委員会参考人として、福島第一原発事故による内部被曝のリスクについて陳述されました。

子どもたちを放射能被害から守るため、今、私たち市民のできることをともに考え、そして、脱原発社会をつくりましょう。



日時：2011年11月11日（金）

18:30～20:30

場所：かでの2・7 大会議室 4F

（中央区北2条西7丁目）

講師：矢ヶ崎 克馬さん

（琉球大学名誉教授）

資料・参加費：800円（前売り）

1,000円（当日）



<講師プロフィール>

矢ヶ崎 克馬（ヤガサキ カツマ）
1943年生まれ、長野県松本育ち。琉球大学名誉教授。2003年より、原爆症認定集団訴訟で、「内部被曝」について証言を行う。震災後の2011年5月、衆議院科学技術特別委員会参考人、参議院予算委員会参考人。著書に「隠された被曝」新日本出版社、「小出裕章、矢ヶ崎克馬『3.11原発事故を語る』本の泉社、などがある。



主催 放射能汚染防止法を制定する札幌市民の会
賛同団体 生活クラブ生活協同組合、NPO法人北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会、
市民ネットワーク北海道、環境市民連絡会、子どもの未来を守る市民の会
(2011.10.17 現在)

問い合わせ 放射能汚染防止法を制定する札幌市民の会

担当：佐藤 典子 011-200-2206（市民ネットワーク北海道 内）